

経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）に関する施設基準指針遵守証明書

- ※ 印鑑漏れや記入漏れは不備となります。記入例を確認して、誤字・脱字のないように作成してください。
- ※ 記入内容を訂正する場合は必ず二重線と訂正印を押印して訂正してください。
- ※ 提出は必ずメール添付（ info@cvit.jp ）にてお願いいたします。郵送されましても原本はお返しいたしませんのでご注意ください。

経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）の
施設基準に係る届出書添付書類
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）に関する
施設基準指針遵守証明書

① 申請日： 年 月 日

② 施設名： _____

③ 施設長氏名： _____ (印)

※自署または捺印が必要です。(シャチハタ不可)

経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）施設基準申請において、以下の内容を遵守いたします。

<CVIT経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）に関する施設基準指針>
該当する口に✓してください

- ④
- (1) J-PCIレジストリーに全例登録していること ※2020年より実施
 - UMINまたはNCDから発行された施設診療科登録および診療科長登録完了通知(ハガキまたは、メールの控え)をCVIT事務局に送付している
 - 既に全例登録を行っている
 - CVITの研修施設、研修関連施設(認定番号: _____)
 - (2) 新規施設は、日本心血管インターベンション治療学会とデバイス企業が共同で行うデバイストレーニングを受けること ※2020年より実施
 - (3) 合併症が有意に多い施設、症例数が少な●施設に対し学会は再度のデバイストレーニングを受ける勧告を行う。勧告を受けた施設は速やかにデバイストレーニングを受けること ※2022年より実施
 - (4) 各施設においてPCI経験300例以上を有する医師の指導のもとに安全に施行し、重篤な合併症が生じたときにCVITに詳細を報告すること ※2020年より実施

<使用デバイス>

- ⑤
- ロータブレーター (ボストン・サイエンティフィック社)
 - Diamondback 360 Coronary Orbital Atherectomy システム (大塚メディカルデバイス株式会社)
 - ELCA 冠状動脈アテローム切除術用カテーテル (フィリップス・ジャパン社)
 - IVL システム (Shockwave Medical Japan 株式会社)
- ※既施行施設は使用デバイスを、新規施設はトレーニング受講予定のデバイス全てに✓をしてください

⑥

CVIT 確認欄

一般社団法人 日本心血管インターベンション治療学会 ver. 20221201

① 申請日

本証明書を作成した日付、又は提出した日付を記入。

② 施設名

・全国規模の団体に所属している場合は、団体名から記入。
(例) 公立〇〇病院、社会保険△△病院

③ 施設長氏名

病院長の氏名を記入。
自署、または氏名の隣に本人印（シャチハタは不可）を押印。

④ 施設基準指針

・これからNCDに登録する場合、1番目にチェックをする。NCDの登録が完了している場合は、登録完了通知書（メール・ハガキ）又はNCDのログイン済画面（施設名の記載が分かる箇所）のキャプチャーを提出する。

- ・すでに全例登録を行っている場合、2番目にチェックする。
- ・CVIT研修施設、研修関連施設の場合、3番目にチェックする。

⑤ 使用デバイス

・既施行施設は、使用デバイスにチェックする。

- ・新規施設は、これから使用する（トレーニングを受ける）デバイスにチェックする。
- ・過去に遵守証明書を提出しており、新たにデバイスの追加を行う場合は、申請済のデバイスにもチェックする。

⑥ CVIT確認欄

・CVIT事務局が申請内容を確認し、証明する欄

**経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）の
施設基準に係る届出書添付書類
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）に関する
施設基準指針遵守証明書**

申請日： 年 月 日

施設名：

施設長氏名：



※自署または捺印が必要です。（シャチハタ不可）

経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）施設基準申請において、以下の内容を遵守いたします。

<CVIT経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）に関する施設基準指針>
該当する□に✓してください

- (1) J-PCIレジストリーに全例登録していること **※2020年より実施**
 - UMINまたはNCDから発行された施設診療科登録および診療科長登録完了通知（ハガキまたは、メールの控え）をCVIT事務局に送付している
 - 既に全例登録を行っている
 - CVITの研修施設、研修関連施設（認定番号： ）

- (2) 新規施設は、日本心血管インターベンション治療学会とデバイス企業が共同で行うデバイストレーニングを受けること **※2020年より実施**

- (3) 合併症が有意に多い施設、症例数が少ない施設に対し学会は再度のデバイストレーニングを受ける勧告を行う。勧告を受けた施設は速やかにデバイストレーニングを受けること **※2022年より実施**

- (4) 各施設においてPCI経験300例以上を有する医師の指導のもとに安全に施行し、重篤な合併症が生じたときにCVITに詳細を報告すること **※2020年より実施**

<使用デバイス>

- ロータブレーター（ボストン・サイエンティフィック社）
- Diamondback 360 Coronary Orbital Atherectomy システム（大塚メディカルデバイス株式会社）
- ELCA 冠状動脈アテローム切除術用カテーテル（フィリップス・ジャパン社）
- IVL システム（Shockwave Medical Japan 株式会社）

※既施行施設は使用デバイスを、新規施設はトレーニング受講予定のデバイス全てに✓をしてください

CVIT 確認欄